

ニハマ写真部 まち歩き撮影会

日暮別邸記念館 2019年7月27日(土)
10:00~12:30

スタート ゴール
駐車場 → 星越館庭園 → 遊歩道 → 日暮別邸記念館 → 展望台 → 遊歩道 → 駐車場



日暮別邸について

日暮別邸は、かつて新居浜から瀬戸内海沖20kmに位置する四阪島にあった住友家の別邸。設計は、大阪府立中之島図書館や、住友活機園などを手がけた野口孫市。明治38年、別子銅山の煙害問題克服に向け四阪島へ移転した製錬所をしっかりと見守るために、翌年、住友家15代当主住友友純によって建てられた。平成30年、100年以上の時を経て、3年の歳月を費やし新居浜市の星越山へ移築。四阪島当時の標高や方角をできるだけ再現し、歴史を今に伝えている。



展望台から南方向に銅山越を望むことができる。



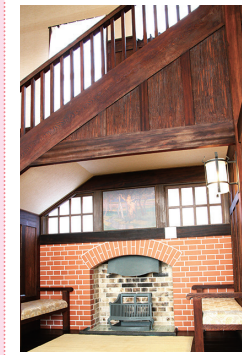
四阪島にあった大煙突のモニュメント。カラムレンガを使って実際の煙突と同じ大きさ(直径10.5m)に作られている。
※大煙突の高さは64mあった。



展望台から北方向に四阪島を望むことができる。

1Fフロア

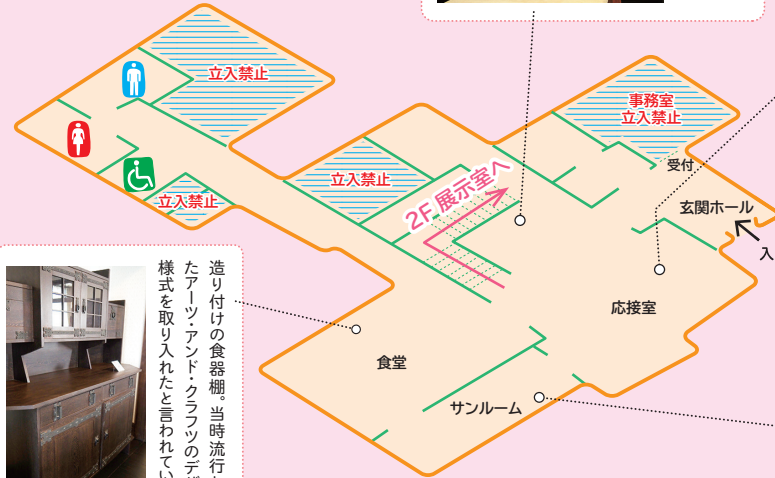
一般的な別荘とは意味合いが異なり、煙害問題克服を見守るための別邸として、内装も華美なしつらえはなく、全体的にシンプルな趣きになっている。しかし、階段の手すりや、造り付け家具の装飾に優雅な表現を魅せたり、腰壁に杉の皮や、床板に柱目の柾を使用するなど、細部までこだわりが。特に、食堂天井の車知継という、高度な伝統技法で杉板と竹を組み合わせた重厚なつくりは必見。移築・復元は、取解きという手法で、貴重な部材およそ1万点を約3ヶ月かけて運搬し、可能な限り元通りに使用している。



イングルヌックと呼ばれるコテージのような空間、階段下にある暖炉を囲む英国風の小さな団楽スペース。



応接室でひときわ目を引く石造りの暖炉は、大島石を使用。張りものではなく、奥行きのある石が埋め込まれている。取解きにより、移築後も石の並びは変わっていない。

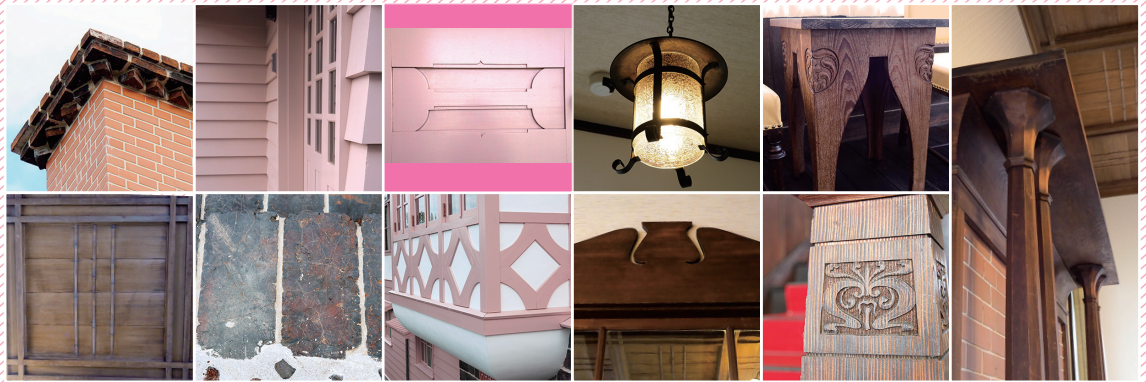


造り付けの食器棚。当時流行していたアーツ・アンド・クラフツのデザインを取り入れたと言われている。



このあたりに四阪島製錬所があった
窓からいつでも製錬所を見守ることができるように、サンルームを北向きに設計。移築後も同じ北向きに。

屋外も屋内も、撮影心をくすぐるポイントが盛りだくさん！是非みなさんの目線で、シンプルの中に潜む洗練されたデザインや、細部までこだわり抜かれた技術の面影を発見して撮影を楽しんでください。



Hello! NEW
新居浜